

令和 8 年用すもも病害虫防除基準

散布時期	適用病虫害	薬剤名及び濃度（水100ℓ当たり薬量）	収穫前 使用日数	総使用 回数	10a当たり 散布量	注 意 事 項 （収穫前使用日数、総使用回数）	防除履歴
① （落葉後休止・ 眠芽前）期		1. 水 （98ℓ）			300～ 400ℓ	1. 石灰硫黄合剤10倍（発芽前、－）を使用 する場合は、この防除の7日前まで散布 を終わらせる。 2. 温暖な日を選び主幹部にもかかるように ていねいに散布する。また、かかりにく い場所では手散布を実施する。 3. ふくろみ病対策としてトレノックスフロア ブル500倍（14日前まで、3回以内）を加 用してもよい。 4. ハーベストオイルに替えてスプレーオイ ル50倍（発芽前、－）を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	カイガラムシ類幼虫	2. アプロードフロアブル 1,000倍（100mℓ）	14 日 前 ま で	2 回以内			
	カイガラムシ類	3. ハーベストオイル 50倍（2ℓ）	発 芽 前	－			
開花前【特 別対策】	黒 斑 病	1. I C ボルドー412 30倍（3.3kg）	－	－	400ℓ	1. 黒斑病が多発傾向にあるので本防除を徹 底する。また、密度低減を図るため、被 害葉や被害果は見つけしだい摘除し、土 中深く埋め園内地表面に放置しない。	散布日 月 日 散布量 ℓ
開花前【特 別対策】	ナシヒメシンクイ スモモヒメ シンクイ	1. ナシヒメコン 100本／10a	－	－	－	1. 下記交信かく乱剤の使用上の注意事項を 参照し、開花前に設置する。	設置日 月 日 設置量 本
② 満開 3日 後		1. 展着剤（ハイテンパワー） 10,000倍（10mℓ）			400ℓ	1. 灰星病予防の重要な時期にあたるので、 時期を失わないよう散布する。 2. 訪花昆虫保護のため隣接園の飛散には十 分注意し、ハチの活動の少ない早朝に散 布する。 3. ハマキムシ類の発生する園ではエクシレ ルSE2,500倍（前日まで、3回以内）を 散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	灰 星 病	2. ロブラール水和剤 1,500倍（66g）	前日まで	3 回以内			
③ （巣箱撤去上 後）旬	灰 星 病	1. ベルコートフロアブル 2,000倍（50mℓ）	3 日 前 ま で	3 回以内	400ℓ	<div>訪花昆虫を保護するため、今回の防除は 巣箱を撤去してから散布する。</div> 1. ふくろみ病の被害果は見つけしだい摘み 取り、土中深く埋める。 2. 黒斑病は雨により感染するので、 降雨前 に防除する。 3. 黒斑病の発生が多い園では、マイコシ ールドに替えて、アグリマイシンー100 1,500倍（30日前まで、2回以内）を使用 してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	黒 斑 病	2. マイコシールド 2,000倍（50g）	21 日 前 ま で	3 回以内			
	アブラムシ類 シンクイムシ類	3. モスピラン顆粒水溶剤㉔ 2,000倍（50g）	前日まで	3 回以内			
④ （果実の大き さが中下生 で旬頃）		1. 展着剤（ハイテンパワー） 10,000倍（10mℓ）			500ℓ	1. ダイアジノン水和剤34㉔に替えて、アグロ スリン水和剤㉔1,000倍（前日まで、2回 以内）を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	黒 斑 病	2. マイコシールド 2,000倍（50g）	21 日 前 ま で	3 回以内			
	灰 星 病 （環紋葉枯病）	3. ナリアWDG 2,000倍（50g）	前日まで	2 回以内			
	アブラムシ類 シンクイムシ類	4. ダイアジノン水和剤34㉔ 1,000倍（100g）	21 日 前 ま で	4 回以内			
⑤ 前回散布 月10日上 後旬		1. 展着剤（ハイテンパワー） 10,000倍（10mℓ）			500ℓ	1. 黒斑病が多い園ではマイコシールド2,000倍 （21日前まで、3回以内）を使用する。 2. モベントフロアブルを使用した場合、同系 統のダニゲッターフロアブルは使用しない。 3. コスカシバの発生が多い園では、6月上旬に スカシバコンL40～100本／10aを設置する。 <div>シンクイムシ類の被害果は見つけしだい摘み取 り土中深く埋め、園地内地表面に放置しない。</div>	散布日 月 日 散布量 ℓ
	灰 星 病	2. ロブラール水和剤 1,500倍（66g）	前日まで	3 回以内			
	シンクイムシ類	3. テッパン液剤 2,000倍（50mℓ）	前日まで	2 回以内			
	カイガラムシ類 アブラムシ類 ハダニ類	4. モベントフロアブル 2,000倍（50mℓ）	7 日 前 ま で	3 回以内			
⑥ 6月 中旬	灰 星 病	1. ベルコートフロアブル 2,000倍（50mℓ）	3 日 前 ま で	3 回以内	500ℓ	<div>ハダニ類の多い園では、下記の殺ダニ剤のい ずれかを使用する。 ・スターマイトフロアブル 2,000倍（前日まで、1回） ・カネマイトフロアブル 1,000倍（3日前まで、1回） ・ダニオーテフロアブル 2,000倍（前日まで、1回）</div> 1. 例年ナシヒメシンクイ・スモモヒメシン クイが多い園では、6月下旬～7月上旬 にナシヒメコン50本／10aを追加設置する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	カメムシ類 アブラムシ類	2. ダントツ水溶剤 2,000倍（50g）	3 日 前 ま で	3 回以内			
品種ごとの収穫開始時期を考慮し、各薬剤の収穫前使用日数を厳守する。							
⑦ 大石早生 前	灰 星 病	1. ナリアWDG 2,000倍（50g）	前日まで	2 回以内	500ℓ		散布日 月 日 散布量 ℓ
	アブラムシ類 シンクイムシ類	2. スカウトフロアブル㉔ 2,000倍（50mℓ）	前日まで	3 回以内			

散布時期	適用病虫害	薬剤名及び濃度（水100ℓ当たり薬量）		収 穫 前 使用日数	総使用 回 数	10a当たり 散布量	注 意 事 項 （収穫前使用日数、総使用回数）	防除履歴
収 穫 直 後 ⑧ 大石早生	灰 星 病	1. スコア顆粒水和剤 2,000倍（50g）		前日まで	2回以内	500ℓ	1. シンクイムシ類の発生が多い園ではディアナWDG 5,000倍（前日まで、2回以内）を追加で散布してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	シンクイムシ類	2. エクシレルSE 2,500倍（40ml）		前日まで	3回以内			
散布時期	適用病虫害	中 生 種	中・晩生種	晩 生 種		10a当たり 散布量	注 意 事 項 （収穫前使用日数、総使用回数）	防除履歴
⑨ 8月上旬	灰 星 病	1. カナメフロアブル ^㉔ 4,000倍（25ml）（前日まで、3回以内）		500ℓ		500ℓ	1. ハダニ類の発生の多い園では、コロマイト乳剤1,000倍（前日まで、1回）を単剤で使用する。 2. すず点病の多い園では、かかりむらのないように防除を実施する。 3. 降雨が続く場合、フリントフロアブル散布後、オーシャインフロアブル3,000倍（前日まで、3回以内）を使用する。 4. オーシャインフロアブルはうり科の野菜に薬害のでる恐れがあるので注意する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	アブラムシ類 （シンクイムシ類）	2. バリアード顆粒水和剤 ^㉔ 2,000倍（50g）（前日まで、2回以内）						
⑩ 8月中下旬	灰 星 病 炭 疽 病		1. フリントフロアブル25 2,000倍（50ml） （前日まで、2回以内）	500ℓ		500ℓ		散布日 月 日 散布量 ℓ
	シンクイムシ類		2. ディアナWDG 5,000倍（20g） （前日まで、2回以内）					
⑪ 9月上旬	灰 星 病			1. パレード15フロアブル 2,000倍（50ml） （前日まで、2回以内）	500ℓ			散布日 月 日 散布量 ℓ
	アブラムシ類 シンクイムシ類			2. モスピラン顆粒水溶剤 ^㉔ 2,000倍（50g） （前日まで、3回以内）				
⑫ 9月中下旬	灰 星 病			1. インダーフロアブル 5,000倍（20ml） （前日まで、4回以内）	500ℓ		1. カメムシ類の発生している園ではヨーバルフロアブルに替えて、テッパン液剤2,000倍（前日まで、2回以内）を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	シンクイムシ類			2. ヨーバルフロアブル 5,000倍（20ml） （前日まで、2回以内）				
（⑬ 9月収穫以降）		1. 展着剤（アビオンーE） 1,000倍（100ml）				500ℓ	1. 黒斑病が多発傾向にあるので本防除を徹底する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	黒 斑 病	2. ICボルドー412 30倍（3.3kg）		—	—			
	コスカシバ	3. フェニックスフロアブル 4,000倍（25ml）		前日まで	2回以内			
前黒 ^㉔ 回斑特 散布病 14日別 後策		1. 展着剤（アビオンーE） 1,000倍（100ml）				500ℓ	1. 黒斑病多発園（果実に被害のある園）では本防除を徹底する。 2. 黒斑病が特に多い園では、今回の防除14日後にICボルドー412 30倍（—、—）を更に使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	黒 斑 病	2. ICボルドー412 30倍（3.3kg）		—	—			
萌 ^㉔ 落葉休 芽後眠 （期）	コスカシバ キクイムシ類	1. ガットキラー乳剤 100倍（1ℓ）		休 眠 期 （落葉後～ 萌芽前）	1 回	200ℓ		散布日 月 日 散布量 ℓ
⑮ 休 眠 期		1. 水 （90ℓ）				400ℓ	1. 例年ふくろみ病の発生が見られる園では、本防除を徹底するとともに、散布にあたっては、枝先から洗うように丁寧にたっぷり散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. 展着剤（アビオンーE） 1,000倍（100ml）						
	越冬病虫害 （ふくろみ病）	3. 石灰硫黄合剤 10倍（10ℓ）		発 芽 前	—			

耕種的防除

全 般	1. 適切な肥培管理等により、樹勢を健全に保つ。 2. 園地の角など薬剤が到達しにくい部分や混み合っている部分の枝はせん除し、薬液が隅々まで到達しやすいようにする。
灰 星 病	1. 被害花（果）や被害葉、被害枝は見つけしだい摘除し、土中深く埋める。 2. 枯死枝やミイラ果は、見つけしだい摘除し、適切に処分する。
黒 斑 病	1. 被害葉や被害果は、見つけしだい摘除し、土中深く埋め園内地表面に放置しない。 2. 風の強い園では、防風対策を徹底する。 3. 樹勢が弱いと発生が多くなるので適切な樹勢の維持に努める。 4. 降雨時の草刈りは控え、地際まで草刈りをしないように管理を実施する。

交信かく乱剤(性フェロモン剤)の使用上の注意事項

- 1) 設置場所は、目通りの高さに8割、2割を上部に、園内均一に設置する。
- 2) できるだけ地域全体で設置する。
- 3) 傾斜上部の設置割合を1～2割多くする。
- 4) 園周辺の立木や、支柱などにも設置する。
- 5) 防風ネットなどを利用する。

すもも施肥基準（成木：10a 当たり）

品目・目標収量		肥 料 名	施肥量 (kg)	施肥時期	N	P	K
すもも 2,000kg	礼 肥	磷硝安加里 S248（わかみどり）	10kg	収穫直後	2.0	0.4	0.8
	基 肥 いずれか	フレッシュフルーツ有機70	80kg	8月下旬～9月上旬	8.0	4.0	1.6
		フレッシュフルーツ有機40	80kg	8月下旬～9月上旬	8.0	3.2	1.6

未結果樹の防除

散布時期	適用病虫害	使用薬剤		収穫前 使用日数	総使用 回数
休眠期	越冬病虫害	石灰硫黄合剤	10倍	発芽前	—
4月中旬～下旬	黒 斑 病	ICボルドー412	30倍	—	—
5月上旬～6月上旬 （果箱撤去後）	アブラムシ類	モスピラン顆粒水溶剤 ^㉔	2,000倍	前日まで	3回以内
8月中旬～9月中旬	黒 斑 病	ICボルドー412	30倍	—	—
	アブラムシ類	モスピラン顆粒水溶剤 ^㉔	2,000倍	前日まで	3回以内
		ケムシ類が多い場合はフェニックスフロアブル 4,000倍（前日まで・2回以内）を使用してもよい			
9月下旬～10月上旬	黒 斑 病	ICボルドー412	30倍	—	—
休眠期	コスカシバ キクイムシ類	ガットキラー乳剤	100倍	休眠期 （落葉後～ 萌芽前）	1回